



コロナ禍の高等教育で見出された セレンディピティ ～学生の可塑性を信じて

新型コロナの影響により、急遽、遠隔授業を中心とした学びの転換が起きた。2020年度は、過渡期であるため、試行錯誤が続き、敗北を認めた人、デジタルならではの面白さに気づいた人など様々であった。禍福は糾える縄の如しというように、禍のあとには良いこともある。悲観的になり、時を戻そうとしても、時は戻らない。一人一人がコロナ禍ならではのセレンディピティを見いだしてほしい。ささやかな、私が見つけたセレンディピティを報告する。



山形大学 学術研究院
学士課程基盤教育機構 准教授
加納 寛子

各国の対面実施,部分開講,コロナ休校,公的な休みの状況

● Partially open ● Closed due to COVID-19 ● Fully open ● Academic break



図1: 2020年4月10日

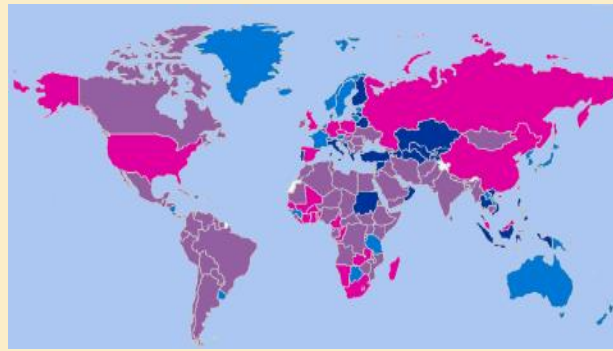


図2: 2020年6月30日

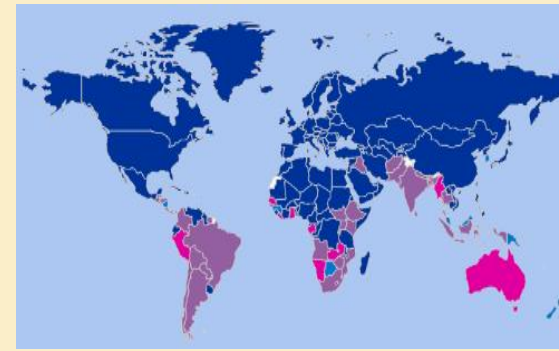


図3: 2020年8月1日

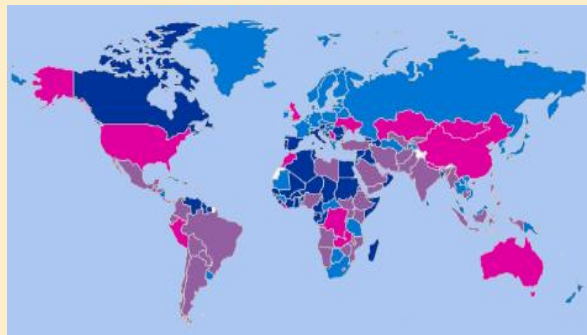


図4: 2020年9月1日

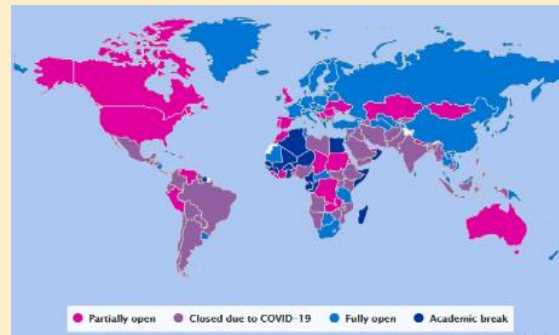


図5: 2020年9月25日

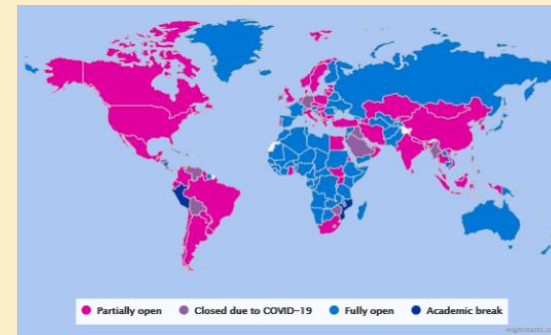


図6: 2021年3月6日

各地の大学でクラスターが発生した。

- 大学でクラスター発生の可能性 京都産業大の学生8人が新型コロナ感染 (京都新聞, 2020年3月29日)
 - 研修医の集団感染で慶應義塾大学病院長が謝罪, 研修医18人が感染 (日経メディカル, 2020年4月7日)
 - 学生に「バイト来るな」 大学に「住所教えろ」 クラスター発生の京産大へ差別相次ぐ (毎日新聞, 2020年4月10日)
 - 中央大学の合宿所 新たに2人感染 計13人にクラスター発生か (NHK, 2020年7月20日)
 - 大学クラブ活動のクラスター、関西で相次ぐ...京大は課外活動を再停止 (読売新聞, 2020年7月25日)
 - 日本体育大学の運動部の寮で、男子大学生6人の感染N (NN24, 2020年8月4日)
 - 九州大でクラスター発生 福岡県の感染者は123人 (朝日新聞, 2020年8月5日)
 - (三重大学) 「大学クラスター」 23人に (東海テレビ, 2020年8月6日)
- 等々・・・枚挙にいとまがない



コロナ禍における 学生の生活の変化

大学生のインターネットの使用時間

(2020年7月「計量分析入門」の受講生と加納で作成した質問紙調査。4大学の学生が回答)

回答期間:7月16日から29日まで、172名が回答した

コロナ禍前		コロナ禍	
ネット使用時間	頻度	ネット使用時間	頻度
0時間以下	5	0時間以下	3
2時間以下	38	2時間以下	8
4時間以下	56	4時間以下	21
6時間以下	43	6時間以下	26
8時間以下	15	8時間以下	35
10時間以下	13	10時間以下	33
10時間より多い	2	10時間より多い	46

大学生のコロナに対する不安感（全体）

（2020年7月「計量分析入門」の受講生と加納で作成した質問紙調査。4大学の学生が回答）

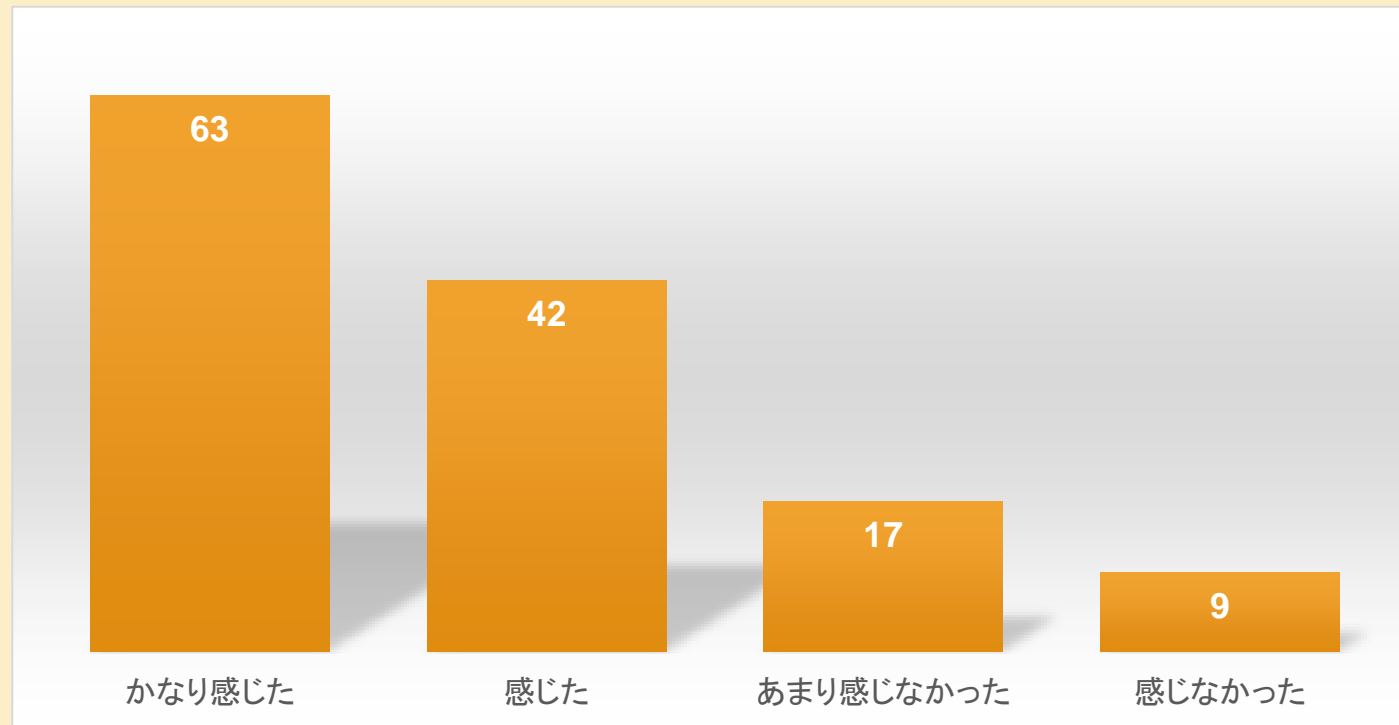
点数(点)	人数(人)
14以上29未満	17
29以上44未満	19
44以上59未満	45
59以上74未満	58
74以上89未満	33

回答期間：7月16日から29日まで、172名が回答した

コロナ禍で生活リズムの乱れを感じたか (人)

(2020年7月「計量分析入門」の受講生と加納で作成した質問紙調査。4大学の学生が回答)

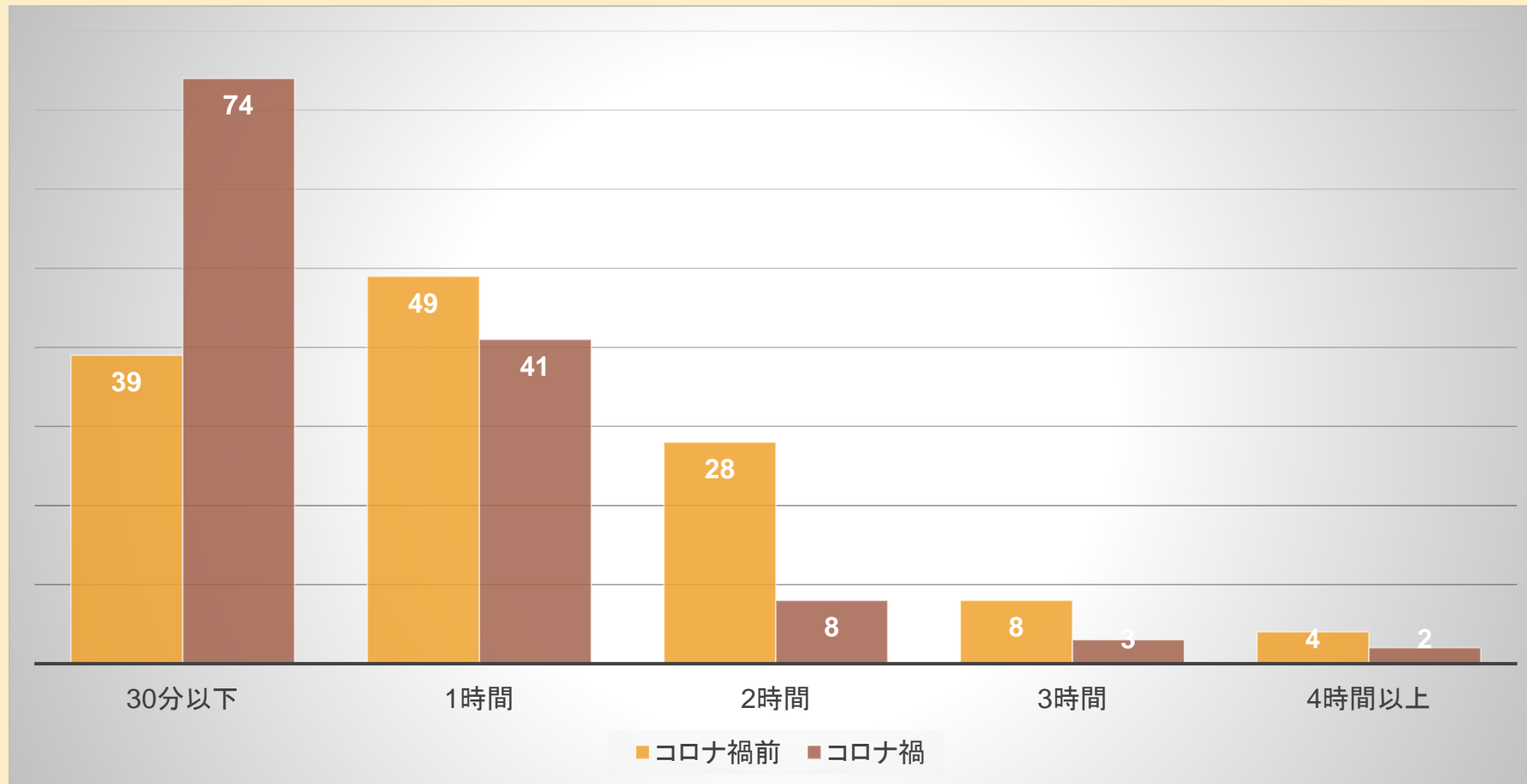
回答期間:7月16日から29日まで、172名が回答した



コロナ禍前とコロナ禍での運動量の変化 (人)

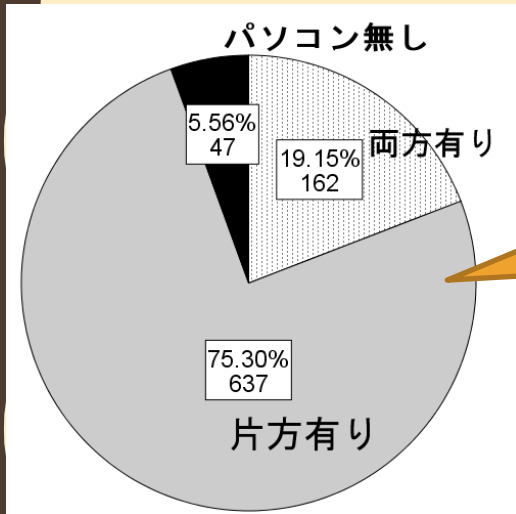
(2020年7月「計量分析入門」の受講生と加納で作成した質問紙調査。4大学の学生が回答)

回答期間:7月16日から29日まで、172名が回答した



学生のオンライン授業のための通信環境とICT機器の所有状況

5つの大学の学生に対し、2020年4月13日～6月8日までの期間に回答を求め、回答数は846名




95%の学生がパソコンを所有

図 デスクトップパソコン・ノートパソコンの所有状況

加納寛子(2020)コロナ禍における高等教育でのオンライン授業の可能性について～学生のオンライン授業のための通信環境とICT機器の所有状況に関する調査より～, 日本科学教育学会第44回年会論文集, 521-524.

	人数	%	期待値	
無制限のルータ	あり	710	83.9	281.97
	なし	116	13.7	281.97
	近日中	20	2.4	281.97
	合計	846	100	
容量制限のあるルータ(ポケットWi-Fi含む)	あり	332	39.2	281.97
	なし	509	60.2	281.97
	近日中	5	0.6	281.97
	合計	846	100	
スマートフォン	あり	845	99.9	423
	なし	1	0.1	423
	合計	846	100	
ノートパソコン	あり	702	83	281.97
	なし	120	14.2	281.97
	近日中	24	2.8	281.97
	合計	846	100	
デスクトップパソコン	あり	225	26.6	281.97
	なし	611	72.2	281.97
	近日中	10	1.2	281.97
	合計	846	100	
パソコンにはマイクがついている(外付けマイクありを含む)	あり	585	69.1	281.97
	なし	235	27.8	281.97
	近日中	26	3.1	281.97
	合計	846	100	
パソコンにはカメラがついている(外付けWebカメラありを含む)	あり	634	74.9	281.97
	なし	186	22	281.97
	近日中	26	3.1	281.97
	合計	846	100	



コロナ禍における 教員の生活の変化

ブルシット・ジョブ※が増えた？

※ David Graeber(2018),Bullshit Jobs: A Theory, Allen Lane

世代差によるオンライン授業のパソコン操作に対する苦痛傾向

世代差について χ^2 検定をおこなったところ、世代差無し(N.S.)

		30代	40代	50代	60代	合計
苦痛傾向無し	人数	15	15	27	9	66
	期待値	13	17.1	26.9	9	66
	%	93.80%	71.40%	81.80%	81.80%	81.50%
苦痛傾向あり	人数	1	6	6	2	15
	期待値	3	3.9	6.1	2	15
	%	6.30%	28.60%	18.20%	18.20%	18.50%
合計	人数	16	21	33	11	81

参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の変化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.

性差によるオンライン授業のパソコン操作に対する苦痛傾向

性差について χ^2 検定をおこなったところ、性差無し(N.S.)

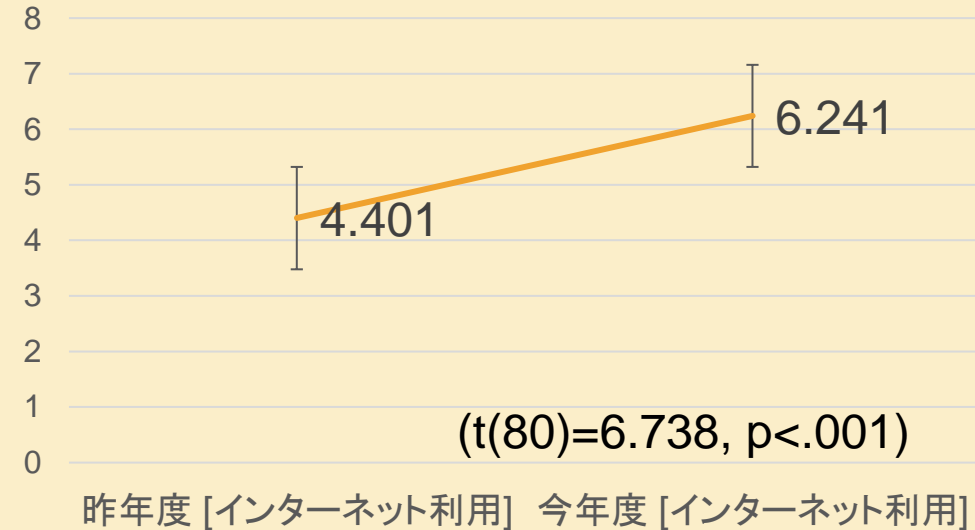
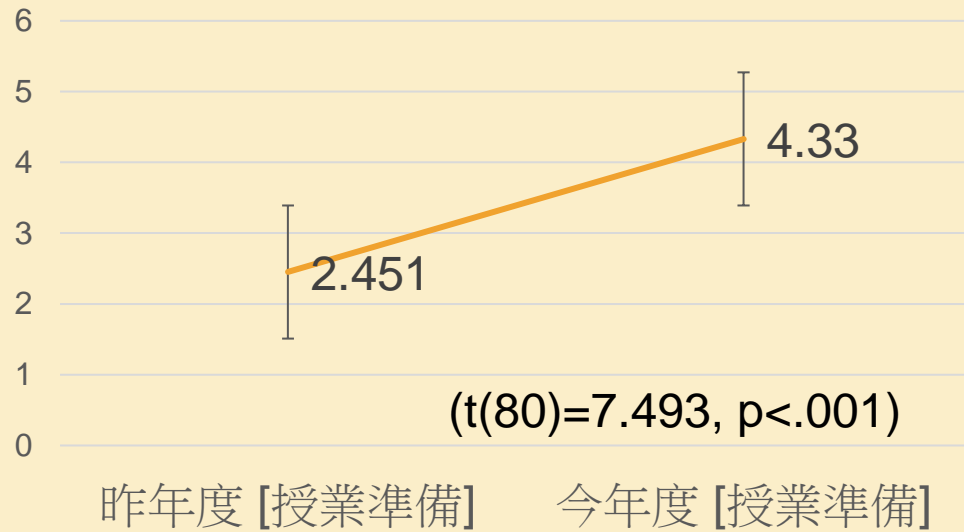
		女性	男性	合計
苦痛傾向無し	人数	23	42	65
	期待値	22.8	42.3	65
	%	82.10%	80.80%	81.30%
苦痛傾向あり	人数	5	10	15
	期待値	5.3	9.8	15
	%	17.90%	19.20%	18.80%
合計	人数	28	52	80

参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の変化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35
 加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.

コロナ禍とコロナ禍以前に費やした時間の違い 増加傾向が見られた項目

※ 今年度=2020年度



<変化がなかった項目>

コロナ禍において小・中・高も学校が休校となり、SNSやテレビなどで、仕事をしながらの育児や朝昼晩3食の家族の分の食事の準備の大変さ、子どもの勉強を教えなければいけないことの大変さなど、家庭に負担がかかっていることがよく報道されていた。

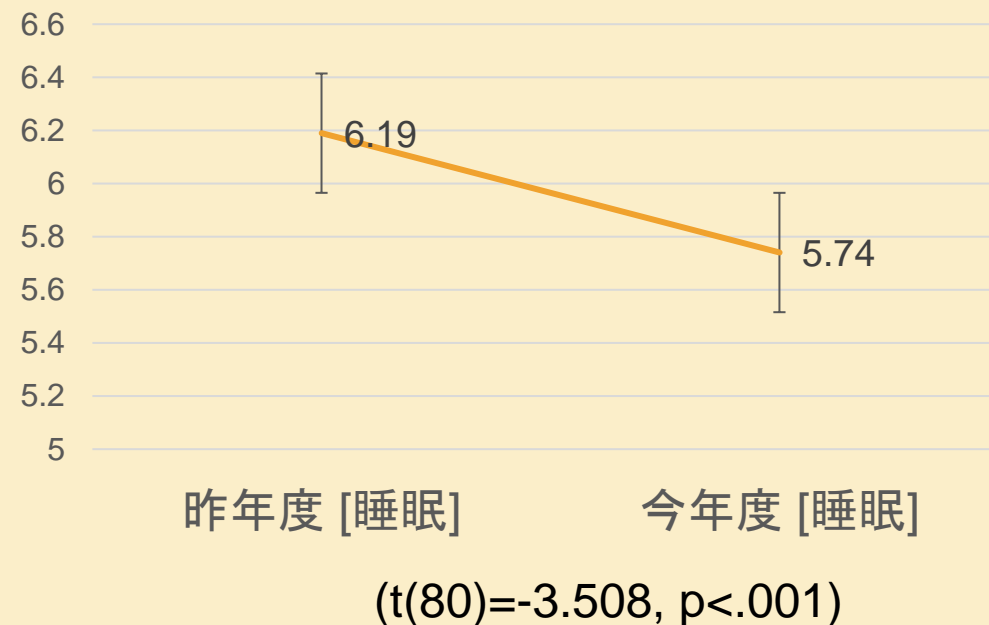
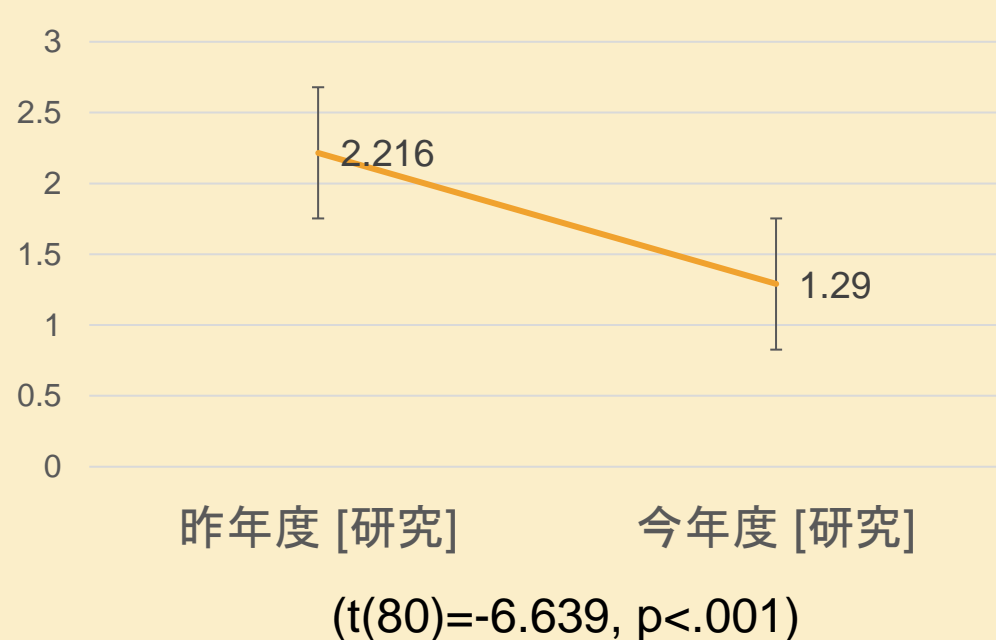
今年度と昨年度の家事育児にかけた時間の差についてt検定をおこなったところ、有意な差は見られなかった(N.S.[昨年=2.00,今=2.12])。

参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の変化に着目して、大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して、大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.

減少傾向が見られた項目



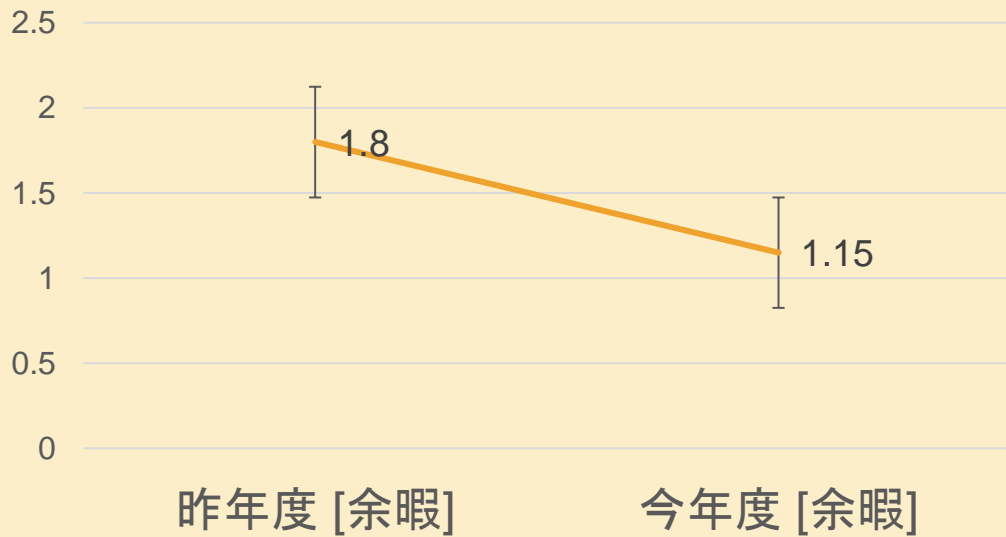
参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の变化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.

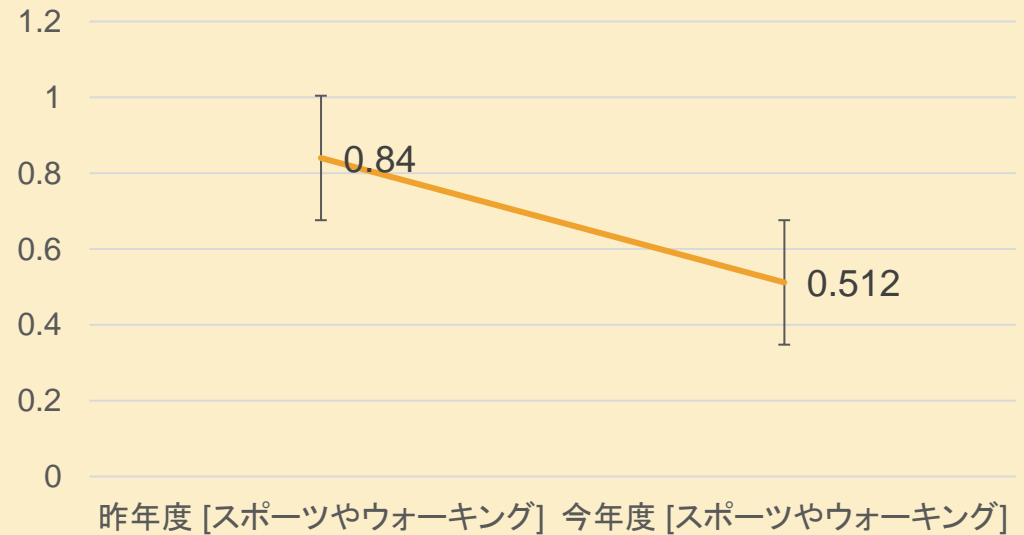


(t(80)=-2.53, p<.001)



(t(80)=-5.605, p<.001)

減少傾向が見られた項目(つづき)

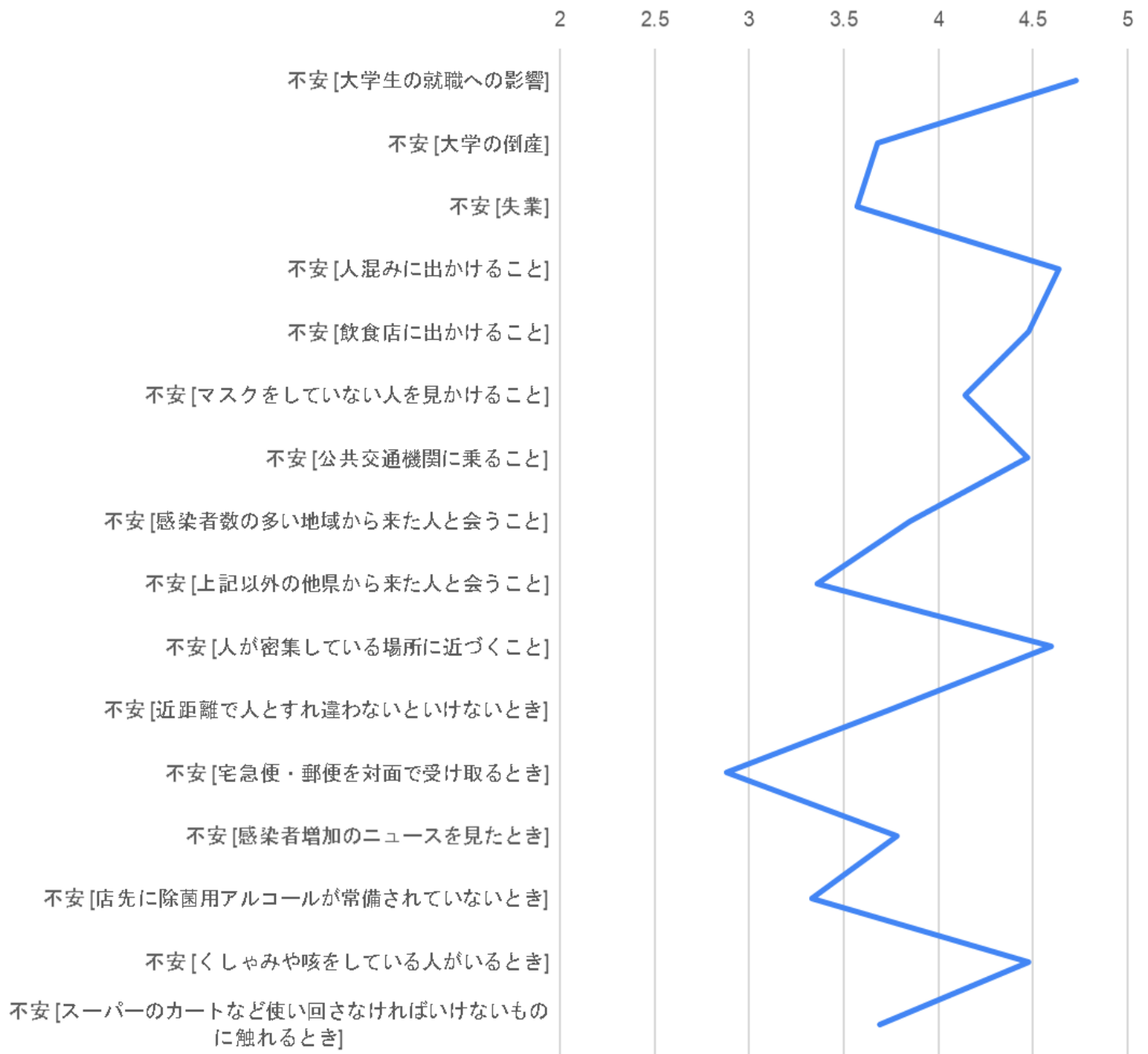


(t(80)=-3.74, p<.001)

参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の変化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.

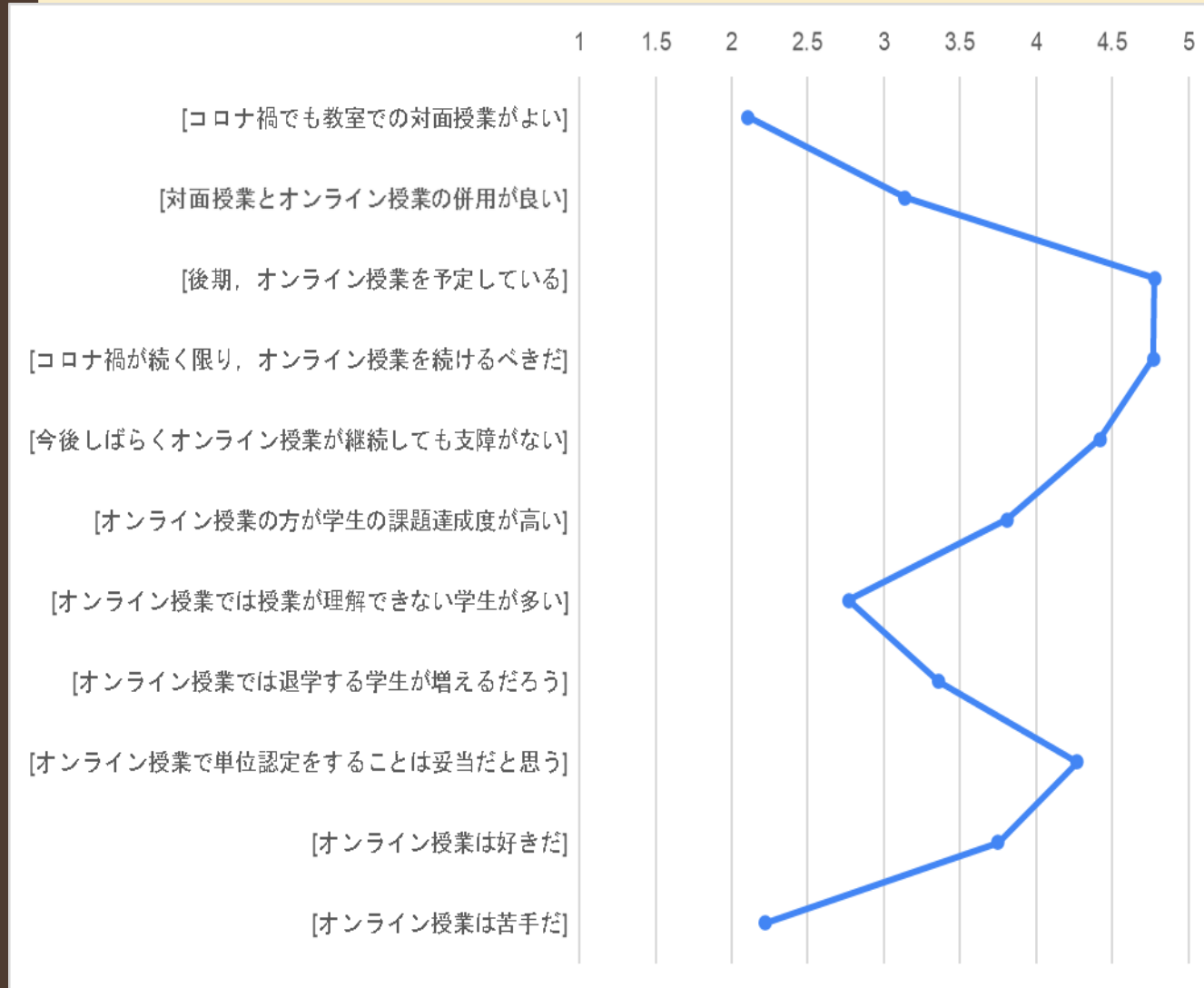


新型コロナウイルスやその影響に対する不安感

平均値は3以上の値であり、中程度以上の不安感を持っていることがわかった。また、[大学生の就職への影響]、[人混みに出かけること]、[人が密集している場所に近づくこと]、の3項目については、4.5以上の平均であり、高い不安感が見られた。

参考
 加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の変化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35
 加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.

オンライン授業に対する意識



[コロナ禍でも教室での対面授業がよい] [オンライン授業では授業が理解できない学生が多い] [オンライン授業は苦手だ]の3項目は平均値が3を下回っており、対面授業でなければならぬと考えている教員は少ないことがわかった。

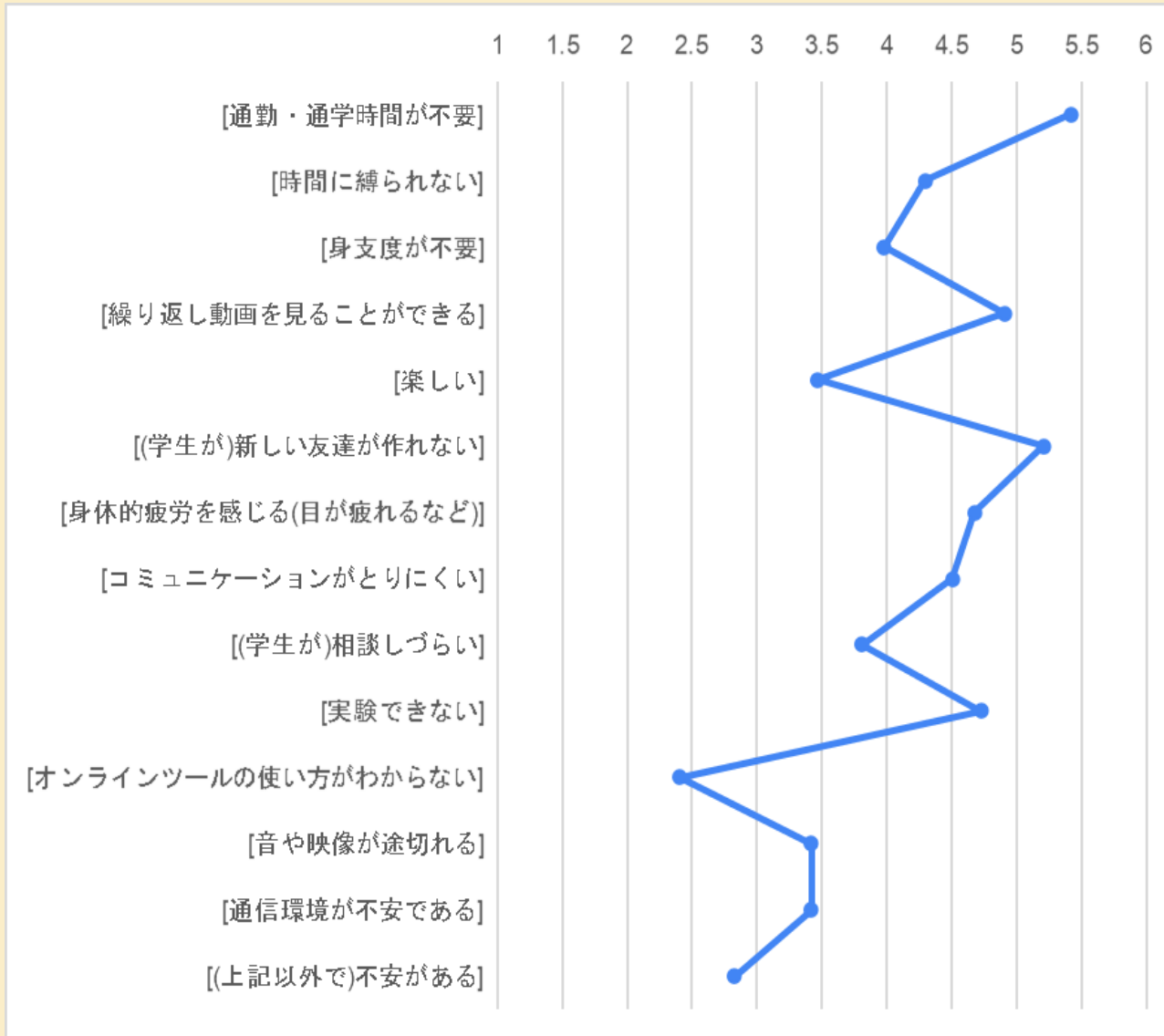
一方、[後期, オンライン授業を予定している] [コロナ禍が続く限り, オンライン授業を続けるべきだ] [今後しばらくオンライン授業が継続しても支障がない] [オンライン授業で単位認定をすることは妥当だと思う]の項目については、平均値が4を上回っていた。このことから、コロナ禍が続く限りオンライン授業を継続することに支障はなく、学修面でも妥当であり、継続が望ましいと考えていることがわかった。

参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の変化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.

オンライン授業のメリット・デメリット



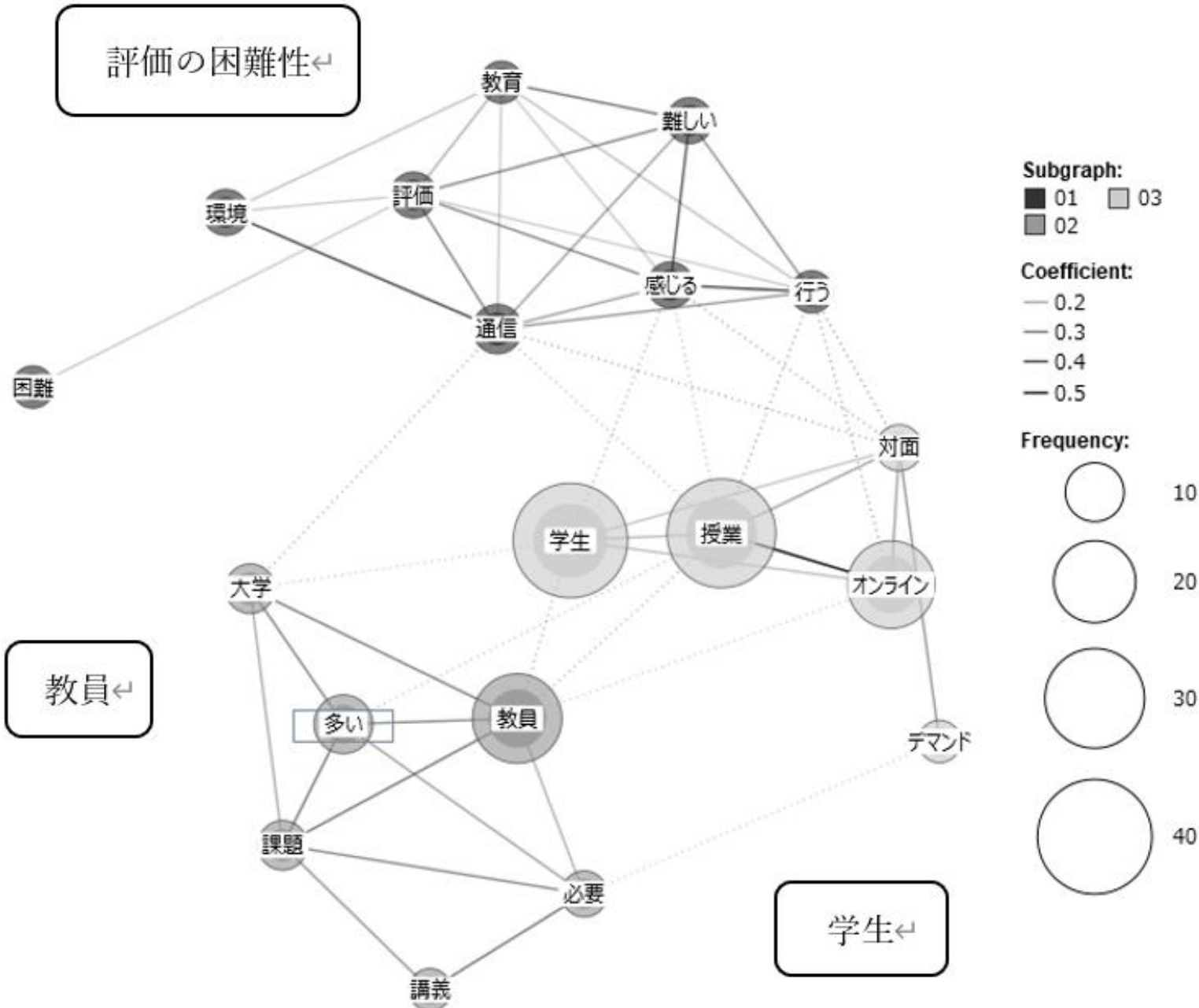
[通勤・通学時間が不要]の項目は平均値が5.42であり、誰もが同意するところであろう。

学生の中には、片道2時間近くもかけて通学している学生もいたことを考えると、通学時間を勉強時間に回すことができ、じっくり探求する学習時間の確保ができる。

参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の変化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35
 加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.


オンライン授業 での問題点や今 後の高等教育に ついての共起 ネットワーク



参考

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 1 ～オンライン授業実施にあたってのICTスキルと生活時間の变化に着目して, 大学マネジメント 2020 Vol.16, No.6, 31-35

加納寛子(2020)コロナ禍における教育と教員の意識に関する実態調査 (2) ～新型コロナウイルス拡大にともなう不安感に着目して, 大学マネジメント, Vol.16, No.8, 40-45.



コロナ禍の高等教育 で見出された セレンディピティ

教育手法の比較

2020年4月頃 顕在的分類

教室での授業 VS オンライン

- ・ 双方向オンライン
- ・ オンデマンド



孤独？
友だちができない？

Zoom疲れ？

2021年4月 【1年模索してみて】

授業は相互作用によって成り立つ**pragmatic**な営み
潜在的な分類

大きく分けるなら

教室での授業
双方向オンライン授業



EX.オンライン授業の
グループワークで、
一緒に議論した人を、
自動車学校で見かけて
友だちになれた

VS オンデマンド



テキスト持ち込み可の試験

テキスト持ち込み可能&インターネット調べ放題

オンライン授業 **VS** 教室での授業

9割の正答率

3割の正答率

(正答率1割のことも!)

正解はすべてテキストの中にあるが、教室でのテストで3割の正答率の要因は（推測でしかいえないが）、教室では緊張しているのか、周囲が気になるのか、テキストが読めない、理解できないが、自宅では、落ち着いてテキストを読んで解答できていないためではないか。

レポートの完成度

双方向オンライン授業 **VS** 教室での授業 **VS** オンデマンド
高 中 低

要因は？

双方向オンラインで説明を受けている時は、家庭教師・個別指導状態。
わからないことがあれば、その場ですぐに聞ける。

オンデマンドでは、早送り、飛ばし見、まとめ見をする。
双方向オンライン授業を録画しオンデマンド配信する方針だったが、後期はオンデマンドの学生が急増。双方向オンラインでも「ながら聞き」は×
最後の出席代わりの課題しか見ていなくて、配点の高いレポート課題の説明を聞いていない。テスト実施の連絡が、**Slack**に書いてあっても読めていない。
2ヶ月昨成期間を設けたレポートがたったの**5**行？

コロナ禍の高等教育で見出された
セレンディピティとして、
大学の授業として大切なことは、



授業は相互作用によって成り立つ**pragmatic**な営み
である点。「人見知りをする学生」なども取りこぼさず、
すべてのヒューマンキャピタルを元に授業を構築すべき。

「コロナ禍で学生がかawaiiそう？」
それは、大人の固定観念の押しつけでは。若ければ若いほど、新しいものを
みつけて楽しんでいる。若者は、順応性が高いホモ・ルーデンスであるので、
もう少し学生の可塑性を信じてみてはどうだろう。

<予告>

加納寛子編著『新型コロナウイルスが人間社会へ残した禍根
～渦中に見出されたセレンディピティと若者の可塑性を信じて～』
大学教育出版 夏頃発刊予定

※ タイトルが若干変更になる可能性があります。発刊時には**SNS**等で報告。